

助成者	森井 真理子	活動期間	2020年4月～2025年3月（2021年度はコロナで休止）
所属機関	認定NPO法人 ボルネオ保全トラスト・ジャパン	職名	理事

動物を通じて次世代の子どもたちが考えるボルネオの自然環境問題

～ICTを利用したマレーシアと日本の子どもたちの対話型遠隔教育～

【活動場所】マレーシア国サバ州のロッカウイ野生動物公園と日本の6つの動物園

【事業目的】マレーシア（サバ）と日本の動物園スタッフが「ゾウ」を題材として動物園で行っている環境授業を、ICTを活用して日本とマレーシアを繋ぎ、子どもたちへ新たな環境教育を展開する。ゾウ生息地はパーム油プランテーション開発問題を抱えており、子どもたちが映像や対話、意見交換を通じて、ボルネオの自然環境問題を知り、自分ごととして関心をもつことを目指す。



【活動内容】

2020年：豊橋動物園によるゾウのアニマルガイドとロッカウイ野生動物公園によるジャングルツアーの様子を相互にライブ中継。小学生5～6年生対象の豆本テキストの作成。
 2022年：日本の豊橋、旭山、平川動物園とロッカウイ動物園を繋いだワークショップを3回開催。世界ゾウの日に子どもの絵画作品を各動物園で展示（以降毎年実施）
 2023年：日本・サバ共同ワークショップ3回開催。日本スタッフによるサバ現地視察。
 2024年：共同ワークショップ3回開催。現地視察映像をワークショップや研修で活用。

【活動成果】

ZOOMを活用して日本の複数の動物園とサバを繋いだワークショップを合計9回実施。打合せや反省会を重ね、毎回改善を図りながら展開した。子どもたちは、他の会場の子どもの様子を見て話を聞くことで、違う環境にいるものの見方や感じ方も違ってくるのがかかったように、サバと日本の子どもが共通のプログラムで学習し意見交換する重要な体験となった。今後も子どもたちが参加・交流したい気持ちを高めるように、プログラムの修正をしていきたい。～JAZA（日本動物園水族館協会）と提携し活動継続～